## いの町ぶらり旅~七色紙伝説編 in 伊野~

## 情報発信プロジェクトチーム

紙の博物館 公認キャラクター源太さん



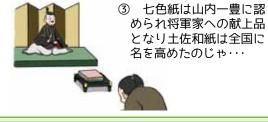
皆の衆、ワシは土佐典具帖紙を発明したことでも知られる吉井源太じゃ。 今回はワシが七色紙の誕生にまつわる伝説について紹介するぞい。 フォッフォッフォ。

© かわぞえ うどう

① 天正末期のことじゃ。長宗我部元親の妹養甫(ようほ)は、波川玄蕃清宗に嫁いでおったが、清宗が謀反の疑いで切腹となったことにより出家し尼となり、親戚関係であった安芸国虎の次男家友と共に成山の地に 移り住んでおった。そんなある日、伊予の国の新之丞という旅人が急病で行き倒れておった・・・



養甫尼と家友の看病により程なく回復した新之丞は、 せめてもの恩返しにと養甫尼と家友に紙漉の技術を教 え、養甫尼の草木染めの技術を加え七色の紙を漉く手 法が完成したのじゃ・・・



④ 数年の月日が流れ新之丞は伊予の国へ帰ることとなった ある日のことじゃ・・・



土地の人々は新之丞を偲び地蔵や祈念碑を 建立して供養を行ったそうじゃ。





**©** かわぞえ うどう

何とも悲しい伝説じゃが、その昔は産業の流出は一国の将来にかかる一大 事であったのじゃな。三人の辛苦の結晶である七色紙の技術は、様々な職 人により改良が加えられ、土佐和紙の礎となったそうじゃ。